

WAP フォーラムの活動概要

1998年12月7日から12月11日までの間、京都においてWAP（Wireless Application Protocol）フォーラム[※]会合が開催されました。本稿では本会合の状況も含めながら、WAPフォーラムの活動概要について報告いたします。

ものを、表2に示します。

フォーラム活動は、主要オペレーター、端末メーカー13社（表1中の下線を引いたメンバー）からなるボードメンバーを頂点に組織的に行われ、仕様策定委員会以下の各ワーキンググループ（WG）によって具体的な仕様策定作業が進められています（図1）。また、HTTP（Hyper Text Transfer Protocol）やHTML（Hyper Text Markup Language）などのインターネット標準プロトコル、記述言語の仕様策定を行っているW3C（World Wide Web Consortium）や、ヨーロッパの電気通信に関する標準化機関であるETSI（European Telecommunications Standards Institute）とも協調し、将来のグローバルサービスの実現に向けた

WAPフォーラムの概要

WAPフォーラムは、携帯電話からのインターネットアクセスを実現させる通信プロトコルとアプリケーション環境の総称である「WAP」の仕様策定および世界的な普及を目的として、1997年12月に設立されました。1999年2月、世界各国のオペレーター、携帯端末メーカー、ソフト会社など約90社が参加しています。主な参加企業は表1のとおりです。また、WAPフォーラムのこれまでの経緯をまとめた

たぐち 太口 つとむ 努

表1 WAPフォーラムの主な参加企業（1999年2月）

	参加企業
通信オペレーター	NTT 移動通信網（DoCoMo）、第二電電（DDI）、日本移動通信（IDO）、ツーカーセルラー東京、東京デジタルホン、 <u>SBC</u> （米）、SFR（仏）、スプリントPCS（米）、Telstra（豪）、AT&Tワイヤレス（米）、ボーダフォン（英）、T-モバイル（独）、香港テレコム
携帯端末メーカー、ソフト会社	ノキア、エリクソン、モトローラ、アンワイヤード・ブラネット（UP）、IBM、松下通信工業、アルカテル、日本電気、富士通ソフトウェア、三菱ワイヤレスコミュニケーション、東芝、クオルコム、スパイグラス、サイオンソフトウェア、サーティコム、RSA データセキュリティ、ジオワークス、

下線はBoard of Directors

表2 WAPフォーラムのこれまでの経緯

1997年12月	WAPフォーラムLtd.設立 （ノキア、エリクソン、モトローラ、UPが設立時のメンバー）
1998年 1月	WAPフォーラムが新メンバーを募集
2月	第1回ロンドン会合（WAP仕様ドラフト）
3月	第2回マイアミ会合
4月	WAP仕様第1.0版策定
6月	第3回バンクーバー会合
7月	第4回ヘルシンキ会合
10月	第5回マルメ（スウェーデン）会合
12月	第6回京都会合

※ URL <http://www.wapforum.org>

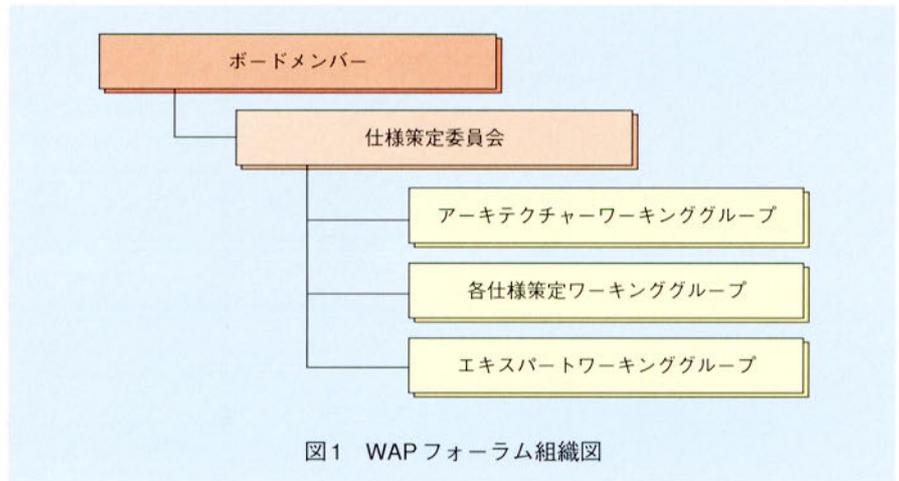


図1 WAP フォーラム組織図

活動を行っています。

京都会合概要

今回の京都会合では、仕様策定作業を継続的に進めている各WGのほかに、WAPサービスの促進やアジア地域独特のサービスについて検討する各WGが創設され、活発な議論がなされました。また、日本で開催された初めての会合ということもあり、国内での関心も高く、WAPフォーラム会員でない人たちを対象としたオープンミーティングやモバイルマルチメディア展

示会の開催などにより、WAPフォーラムの活動紹介や情報、人の交流の場としても有意義な会合となりました。

WAP仕様概要

WAPフォーラムでは、1998年4月にWAP仕様第1.0版を策定、公開しました。WAPは、移动通信ネットワークを経由して、ブラウザを搭載した携帯電話などからの、インターネットやイントラネット上のコンテンツサーバへのアクセスを快適に実現することを目的として策定されたプロトコル仕様

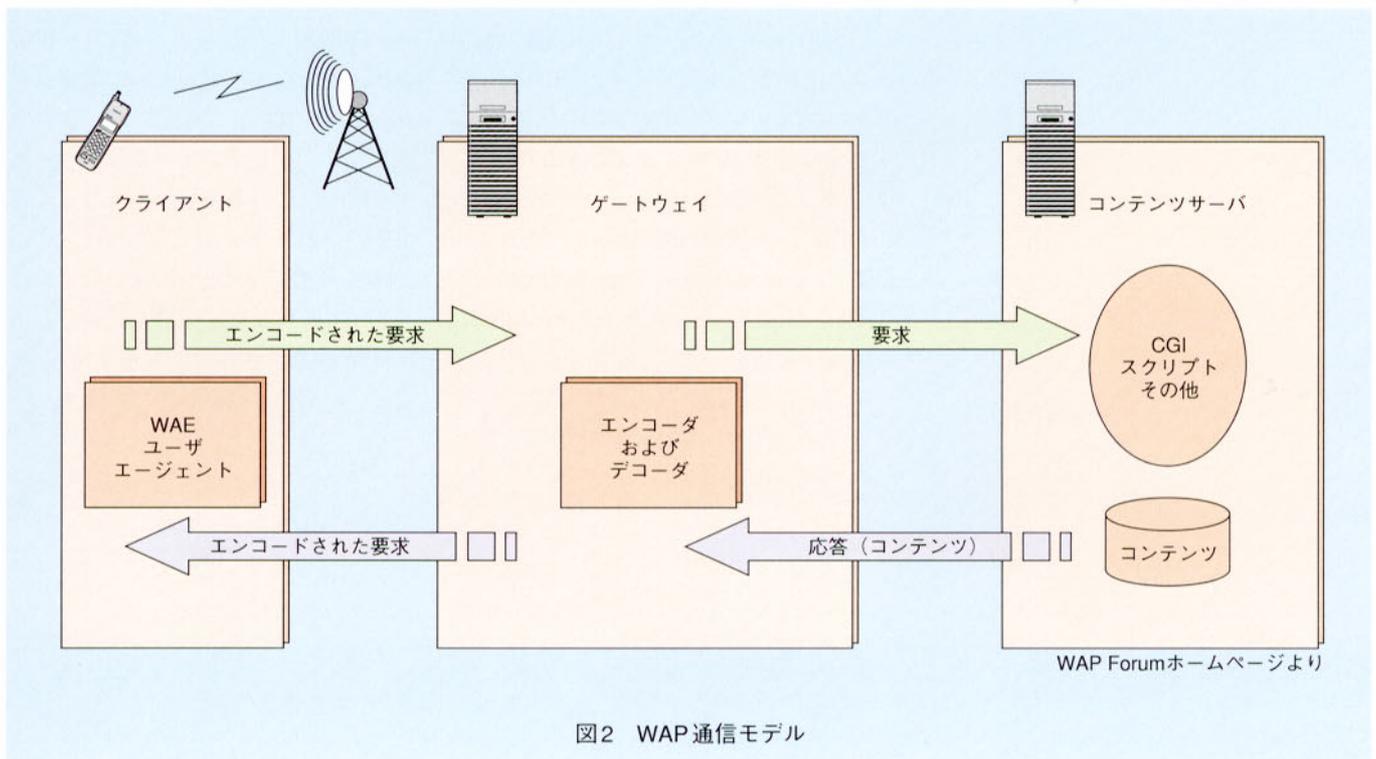
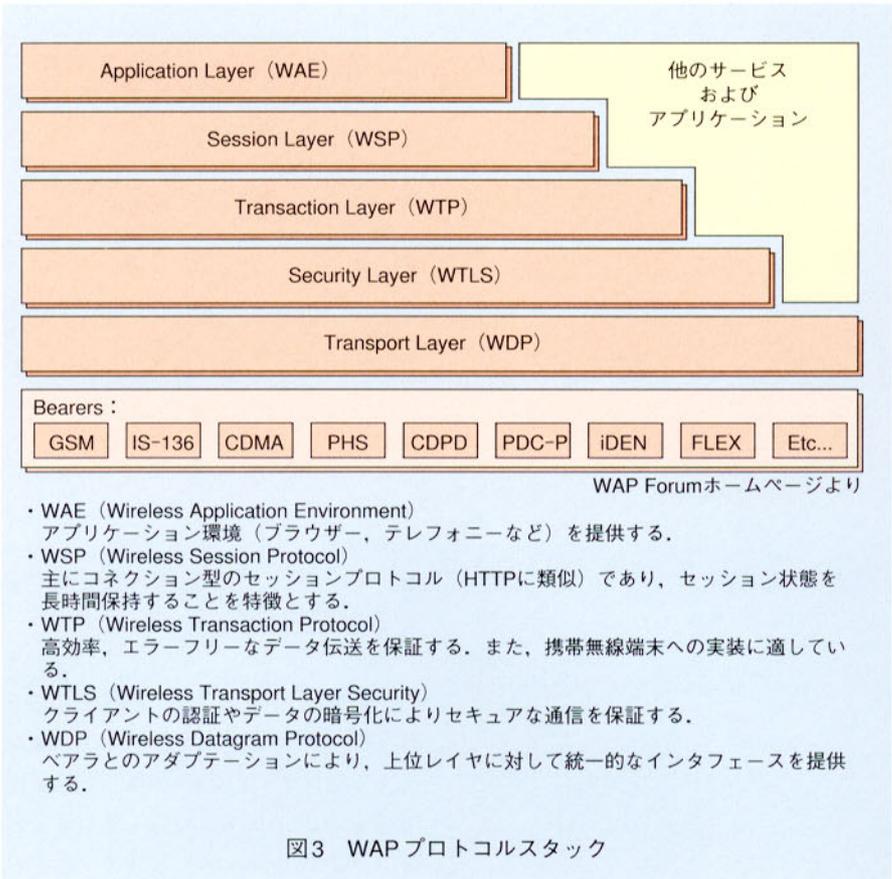


図2 WAP通信モデル



であり、図2に示す通信モデルのうち、クライアントとゲートウェイの間のプロトコルを規定しています。ゲートウェイは、プロトコルの終端、変換とコンテンツの変換、圧縮機能を有し、WAPとインターネット標準プロトコルとの整合を保ちます。図3にプロトコルスタックとその役割を簡単に示します。WAPは、さまざまなベアラ (例えばPDC (Personal Digital Cellular Telecommunication System)、PHS (Personal Handy Phone System)、GSM (Global System for Mobile Communications) など) とのアダプテーションをとることにより、アプリケーションに対して共通のプラットフ

ォームを提供します。

あとがき

WAPフォーラムは今後も参加メンバーの増加が予想され、WAPが世界のさまざまなオペレーターや端末メーカーからの支持、貢献により、グローバルなモバイルインターネットサービス実現のための重要な技術となることが期待されます。DoCoMoは、IMT-2000を視野に入れたモバイルマルチメディアサービスの重要な技術としてWAPを位置付け、これからもWAPフォーラム活動に貢献していきます。